

九州大学新聞

<https://hdl.handle.net/2324/1520275>

出版情報：九州大学新聞. 79, 1932-10-05. 九大法文会
バージョン：
権利関係：



九州大學新聞

國家試験

立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著

立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著

立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著

立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著

立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著

立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著

立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著

立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著

立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著

立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著
立憲主義の発展 矢野龍溪氏 著

鋤 焼 水 焚

明治屋

春吉橋際

電話 一二七四

鋤 焼 水 焚

利

中對島小路

電話 六五

開店三周年

For LADIES AND GENTLEMEN

HAIRDRESSING STUDIO

天神町丸善理容院

土居町 階上御婦人美容部

古本高く々々

買入申候

篠原書店

福岡市片土居町電車通

電話 四七〇二番

岩波書店刊行

高等物理學 卷上

竹内 潔 著
定價 二四八〇
送料 二四〇
送料 二四〇

追高等物理學補習

竹内 潔 著
定價 二四八〇
送料 二四〇
送料 二四〇

高等問題と解義

北岡 啓 著
定價 二四八〇
送料 二四〇
送料 二四〇

物理學 熱學

芝 龜 吉 著
定價 二四八〇
送料 二四〇
送料 二四〇

化學 非金屬

北岡 啓 著
定價 二四八〇
送料 二四〇
送料 二四〇

化學 金屬

白井 俊明 著
定價 二四八〇
送料 二四〇
送料 二四〇

化學 炭素化合物

都築 健 著
定價 二四八〇
送料 二四〇
送料 二四〇

岩波講座 第八次 會員募集 全三十卷

數學

高木貞治 編輯

岩波講座は其の次を重なるに従ひ、その卓越せる眞價を益々普く認められんとしてゐる。最近に公刊せられた「哲學」が多大の稱讃を博せるに續いて今我等は第八次計畫として「數學」を刊行し更に此講座の權威を高からしめ得るを喜びとする。數學が論理の最も精緻なるものとしてギリシアの古から我々人間に如何に根柢的な力を與へたかは今更説くに及ぶまい。すべての科學は今や悉くこの確乎たる根柢の上に於てのみ安定し、且つ成育しようとしてゐる。數學を知らずして、科學的文化を云ふものは所謂雲を掴むに類するものである。我等は「數學」講座の刊行を企てて既に數年、その容易に公けにしなければならぬのは、偏に完璧を期せんがためであつた。今最も慎重なる準備を整へ、學界の最高權威者並びに新銳學者の贊助の下に、現代高等數學の奧義を世に公開しようとする。學界並びに一般教育界の爲めに、それがいかにも有意義であるかは、敢て世の批判に委せよう。我等は只この企圖を遂行して、その輝かしい成果を全うせしめんがために、學徒諸士の熱誠なる後援を衷心より切望する外はない。

項目及び執筆	
一、一般項目	常微分方程式論 高木貞治 著
二、代數	代數論 高木貞治 著
三、幾何	幾何論 高木貞治 著
四、解析	解析論 高木貞治 著
五、幾何學特殊項目	幾何學特殊項目 高木貞治 著
六、幾何學	幾何學 高木貞治 著
七、幾何學特殊項目	幾何學特殊項目 高木貞治 著
八、應用數學	應用數學 高木貞治 著
九、別項	別項 高木貞治 著

岩波書店

鹿子木法文學部長談
レザン療養所に於ける……

世の非が、静を深く深

生蓋そなれ
以法の社のん義れ
抗

教授 大澤 章

中又ほでしを大、以先狼狼がががりた講を叩

●

適證生に於ては、眞現開會行者を以て

(三) 號九十七第 聞新學大州九 (日曜土) 日五月一十年七和昭 (可認物便郵種三第)

井口氏について

醫學部 宮崎先生
八月九日、井口教授の主治
病室に於て、臨時に開かれたる
醫學部の臨時評議會に、井口
教授の病状、及、その治療
方針等、報告せられた。報告
は、大體、井口教授の病状、
が、如何なるものであるか、
を述べ、その治療方針、を
述べた。報告は、大體、井口
教授の病状、が、如何なる
ものであるか、を述べ、その
治療方針、を述べた。

病床日誌

八月九日、午後、井口教授
の病室に於て、臨時に開か
れたる醫學部の臨時評議會
に、井口教授の病状、及、
その治療方針等、報告せ
られた。報告は、大體、井口
教授の病状、が、如何なる
ものであるか、を述べ、その
治療方針、を述べた。

新聞部の
井口教授

(新聞部)
井口教授は、新聞部の編輯
に、大體、井口教授の病状、
が、如何なるものであるか、
を述べ、その治療方針、を
述べた。

年譜

大正六年七月(三) 東京大
學に入学。八月、大阪新聞
に入社。九月、大阪新聞に
入社。十月、大阪新聞に入
社。十一月、大阪新聞に入
社。十二月、大阪新聞に入
社。

講義

一、ア、ブライツの社會學
二、ア、ブライツの社會學
三、ア、ブライツの社會學
四、ア、ブライツの社會學
五、ア、ブライツの社會學
六、ア、ブライツの社會學

最近の論文
及び隨筆

一、ア、ブライツの社會學
二、ア、ブライツの社會學
三、ア、ブライツの社會學
四、ア、ブライツの社會學
五、ア、ブライツの社會學
六、ア、ブライツの社會學

恩師井口教授
を憶ふ

江川生
先生の御逝去を、追悼する
ため、恩師井口教授を憶ふ
と、いふことになった。先生
の御逝去を、追悼するため、
恩師井口教授を憶ふと、い
ふことになった。

心身の關係

松下三省
心身の關係は、古くから
論議されてゐる。心は、身
の中心である。心は、身の
中心である。心は、身の中
心である。心は、身の中心
である。

明日は晴れ

(世界館主)
明日は晴れ。明日は晴れ。
明日は晴れ。明日は晴れ。
明日は晴れ。明日は晴れ。
明日は晴れ。明日は晴れ。

郷可葉

郷可葉。郷可葉。郷可葉。
郷可葉。郷可葉。郷可葉。
郷可葉。郷可葉。郷可葉。
郷可葉。郷可葉。郷可葉。

二つの手紙

二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。

二つの手紙

二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。

二つの手紙

二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。

二つの手紙

二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。

二つの手紙

二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。



井口マリオン嬢

年譜
大正六年七月(三) 東京大
學に入学。八月、大阪新聞
に入社。九月、大阪新聞に
入社。十月、大阪新聞に入
社。十一月、大阪新聞に入
社。十二月、大阪新聞に入
社。

講義
一、ア、ブライツの社會學
二、ア、ブライツの社會學
三、ア、ブライツの社會學
四、ア、ブライツの社會學
五、ア、ブライツの社會學
六、ア、ブライツの社會學

最近の論文
及び隨筆
一、ア、ブライツの社會學
二、ア、ブライツの社會學
三、ア、ブライツの社會學
四、ア、ブライツの社會學
五、ア、ブライツの社會學
六、ア、ブライツの社會學

恩師井口教授
を憶ふ
江川生
先生の御逝去を、追悼する
ため、恩師井口教授を憶ふ
と、いふことになった。先生
の御逝去を、追悼するため、
恩師井口教授を憶ふと、い
ふことになった。

心身の關係
松下三省
心身の關係は、古くから
論議されてゐる。心は、身
の中心である。心は、身の
中心である。心は、身の中
心である。心は、身の中心
である。

明日は晴れ
(世界館主)
明日は晴れ。明日は晴れ。
明日は晴れ。明日は晴れ。
明日は晴れ。明日は晴れ。
明日は晴れ。明日は晴れ。

郷可葉
郷可葉。郷可葉。郷可葉。
郷可葉。郷可葉。郷可葉。
郷可葉。郷可葉。郷可葉。
郷可葉。郷可葉。郷可葉。

二つの手紙
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。

二つの手紙
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。

二つの手紙
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。

二つの手紙
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。

二つの手紙
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。

二つの手紙
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。

二つの手紙
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。

二つの手紙
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。

二つの手紙
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。

二つの手紙
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。

二つの手紙
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。

二つの手紙
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。

二つの手紙
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。

二つの手紙
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。

二つの手紙
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。

二つの手紙
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。
二つの手紙。二つの手紙。

時局を凝視して・
★ 西日本 大學 高専 辯論大會
★ 主催 學友會 辯論部
堂に溢るる聴衆

學友會辯論部主催西日本大學高專辯論大會は去る五日午後六時より福岡市記念館に於て催された。定期前聴衆は既に階下に溢れ吉岡委員の開會の辭も終る頃は一般市民、學生、女學生を以て満員の盛況を呈しこの種學校主催の辯論會としては稀に見る盛觀であつた。

[illegible]

Chinese Literature

中國文學

一、文學之起源
二、文學之分類
三、文學之功能
四、文學之地位
五、文學之發展
六、文學之批評
七、文學之創作
八、文學之欣賞
九、文學之教育
十、文學之社會

一、須臾の危険に危機を道徳
治門 治門 下村 成行君
二、部長長行 西山 部長
三、閉會 辭 員 津村三郎君
委員 津村三郎君

竹岡教授以下
石窟の

古跡を訪ね大宛經由香山——博
と歸着をまつた、佛國寺の佛像
非常な立派なものでも、行も敬嘆
惜しなかつたことである

渡佛を前に
無念！病む

一、社會改良策 荻田 高君
二、大阪外語 節田 正照君
三、社會の根本問題 阪田 清君
四、我國現代教育を内省す 學君
長崎縣導 三瀬
一、過渡期雜感 入江 秀雄君
廣島文理大

燦
た
り
!

佛像研究

去月、渡鮮さる

高岡國教授及、金剛山兩山主は去るの五日出發、親視研究を了て、十九日朝鮮學した。往路は連絡船にて釜山に上陸せり、蔚山へ、そし目的地佛蘭寺に於ける石窟内の佛像を研究し、次いで慶州の御金鑑を祈る。

重松教授

佛化の法、聖部重松教授は渡佛僧、研究の客、此處、日蘭、一熟頗なり。皮膚病療治、今日本學術院皮膚病療治科に入院、醫師治療せざる。七月、初旬出發、佛蘭のころ、一期、その間には未定である、切實に御金鑑を祈る。

道を通し、日蘭親善を圖るは、

日満親善

本學創設部では武道を通して日
講義書を圖るべく去る二日瀧州武
寺修業の途にのびたる一行は柴
田牧師を陣頭に、監督に學生課
の中村四段を携へ、福島に到り以
下

七日は新京に於て、瀧州國
司に勤務中の昭和御前試合
士、九大農科出身并義人
の幹旋で執政澤氏の前に
瀧州國軍と御前試合を行ひ

師範	教諭	柴田	萬策
監督(法)	四段	中村	泰三
先輩(農)	二段	福島鶴太郎	
學生(醫)	二段	藤原	哲夫
學生(工)	二段	里井孝三郎	
學生(法)	二段	川崎	巖
學生(醫)	三段	松村	謙三

35—2
ラダビシーズン来る
初の栄冠
本學の手中へ

學生(醫)二段	今村	満雄
學生(醫)二段	鈴木	憲輔
學生(法)二段	高尾	進
學生(農)二段	西	康世
學生(醫)二段	黃田	謙介
學生(醫)二段	三井	卓雄

一行は去る二日博多發勇途についたが、大連で全滿鐵軍と戦ひ

ラグビーシーズンを迎へて、福
博ラグビーファンも大の期待を
以て迎へられた九十九對城大第一
本學期開戦は去年九月に行つた。
本學軍は本春東上、東大軍を
破。九州ラグビー界のため萬丈
の氣を吐き、益々狂調のものに
之に對し城大もさるものにて、
定めし肉體戰を見るならうと、
期待は多かつたが、本學期然
して、意々大勝した。

秋空高く紺碧の一日

生躍動 和氣横溢
觀眾グラウンドを埋む

高六く「揚げられる腰海ご共
十六日、午前九時陸軍部運動
場の一日と見送がきどつて
の観客は正門東側の両方より
をなしたし押かけ、前十時半
には埋りたる。

ラハム六百米程、三人四

ごらる餘暇あつた。
〔ダンス〕(看護婦) 堀の方
より出でた六列、白き線は右
の旗を手にし、やがて十二列
に分れる。銀体の模は跳り、日
の丸はヤナである。十二列の調子
は又も列に結んで奏する曲調

五

「假若列」(學生 六種あり
觀衆の投票は依り優待を決す。
一等 荻野三平早打のカゴ
二等 アベコバ行進曲
三等 一人の一生とは?
四等 日曜受て頂戴
五等 久保隆左衛門レコード
六等 大久保隆左衛門レコード

特に親客の興味を惹いたもので、
――覺醒の秋――（學生）――號稱
一目にんて走って来てペン
すき口にくわえてゴッラ
でかきむし、それが醫科の
パンにあつては早いや

用名鑑を一走るしか指
さるを見る下駄へ呼んで行
朝七夜八大聲張りあけ
――三人同聲――

校長　――ラケットにボールをのせて走らせ放逐陣で、ボツチヤン、ヤンヤと様の胸は躍る。
龍人の果物を君に頂いて師看顧の看護長、拍手を以て歸席する。――達、和氣アキ一の状最が屈する。

「對年リレ」決勝　――成績
一等三年　二等四年
多數アリレ　及び各科看顧
リレ、各所　――本所での登

[illegible]

堀内將に就學分最高點に
こす。
の頑丈な姿 はち巻きた
さん、何れ方ね、體態を
。

「嬌姿に臨」——グララン
隔りも現はれた娘姿をミ
しほりの顔かぶりをしたこ
すくの状態、二年生の
觀衆の視線は見る見るこ
集注した。

たすきをかけた、娘子連を
て、面が演じて、續いて
ベニヤの娘の氣節を演ず。
の捕兵衛の親母の姐と
明瞭なる空に、拍手の音が



映畫會の使命と生命

「観覧客として『前光』を出し、二回を観覧に必ず満足して帰る」物
し、大々的に活潑する決意を述べた。山映畫館アメリカの物
有恩の方には成るべく早く芝居、試
御覧せよと云ふ。定員は
御覧下さい。當座の
手から。

觀客の方にこんな早
を發行すること出来な
論委員の力も有ませ

れより更に、世界館の

中心として

躍動横溢！

れし醫學部運動會

バンドを埋む

ろろと波る、實に情てりめん
金盞（君愛稱）湯の雨ふ
た。余もあつた。

座を手にして、やがて十一列
の旗を掲げる。旗作の脚聲は、日
日はアヤと云す。十二列の白玉
六列は、紅んで奏する詞も應
天幕へおまけにあらず。

一等滋料 二等婦人入
又科着機着リレ一成
一等皮肉着 二等精
カッパを持つて臨る選
て一層高を高めるテント
器科間の壁をあければ
に況へよす

假設行列（學生 六種あり）の投票は、依り優勢で決す。等、電三平早治のカゴ等、人の生さず等、アベコベ行進曲等、日華受して頂戴等、ボズオブレンド等、大分保護左衛門登壇等、ラケットにボールをの走る教経連、ボツチャン嬢ヲや真様、駒は躍る。の看護員、拍手を頂いて歸る姉さん達、和氣アイクノの狀對學年レリ、決勝一成績一第三年一第四年對政策リレ、及び各看護婦多分一各所、看護婦

ハチ巻せし、看經經選手
ラウンドを一周する、本旗の
響く、立上りの余韻も無い程
かけた観衆は身動きもせず、
婦人の胸は躍動す。
對教室リレー成績一



A black and white photograph showing a group of women in long white dresses standing in a line on a grassy field. In the background, there are several white tents and tall pine trees.



又、萬事事情が許すならば毎週映画館に於ける皆様の雅興を計つて貴賓券を發行致しませう。相當の雅興を世界館に負はしめてゐるのですから成程。多數の入場者のあることを前提とするは勿論です。

映画館貴賓会こそ使命を唯單に割引券發行に止めてゐるものではありませぬ。批評官も重大なるものがあります。貴賓會たるは映画は凡て批評の標にのせられ鑑定さるべきもの。時々は非難も受けるが、さういふ時こそ御氣遣い下路下路。又諸君は御氣遣い下路下路は、世界西交交渉の上、再興續りは時間定めて上映して貰ふ積り

ドーメデレの服洋

星島新聞の智恵により、この一冊は
て止まされぬ。今度又、貴一(貴一)の
後援にて、世界館にては最低
の料金を値下ししてあるのだから
題意に引ずりては、學生諸君の
熱望であるならば、購書機向の
映画觀念の實際化と言ひ、識識期に
従つて、「特」に進んで御許下し
いますか。『一』を譯したる「一」の
趣旨十二分に汲んで、學生以外に
絶對に流通せしめたい、即ち商
品を防腐「一」にした下り。
皆様の良心に響つて。
手數料として一錢はたくこと
も、全會としては感念がしま
す。早く印刷代通信代等を致し
て、早く配達ないし、これを致す積
ります。此の点特に御了解下さつ

法支
研
大衆教
の勝
優
地生

ら」で今急いで刷りよ
 んに頼まりましたの
 やき乍ら傍の少女を擁
 抱し様なり
 あちら「へー、雨、聞
 おかしやん、プリント
 ……▽試験で、アリ
 下宿業さ、そして學生
 心に、童心：

晴天に恵ま

会場入口（上）
看護婦球投げ（下）

製場工家自は全元にし地縮
商卸服洋
倫田本は月
町掛多博
番貳七五話電

宇部教室
研究室變更
共済部も
洋

一ヶ月間を二度に分ち十五日間内に於いて自己の最優秀点を十回トータルに通算して順位五等まで賞品を差上げますA級B級と致します

舉つてお勵み下さい

千代町ゴルフ倶楽部

日頃の御愛顧に報ゐる爲め

日常の御慰めに
も有ます

網屋停留所ヨリ東二丁
電話五八九五番

成落築新

廉價で高級な
生活の出来る

サンキユーアパート

短期利用 二箱崎町河多田

東京電力労働組合
電話 四八六四番

博多驛前九軌デパート
九軌食堂
電話五三〇七番

純支那料理

福新樓

鍋焼界の王座
 牛肉 豚肉 鶏肉
 鍋焼ちり水焚
 歓迎送別クラス會等の
 宴會も經濟に出來ます
 博多上新川端町八一
いろは料理部
 電話四九四四番
 乗車前の食事の御用意は
フレツシュで **ス井ート** な
モダンサービス の

醫書
專門書高價買入

福岡橋口町

文園堂

振替15338

福岡市天神町七二番
電話六〇五四番

フルーツのゆかしさ
 新鮮・佳味・低廉
 劃成的希望の當店に
 是非御後援御用命を
 博多驛前九軌デパート内
 電話(二八番(デパート共通))

スポーツの秋
 運動具の買求修理は！
 運動具一切

味覺の秋!!

御食後の卓上

博多千疋屋の

和洋食

喫茶

中央食堂

工學部本館

YASUTAKE'S
BOOK-BINDING. 九大御用
創業 滿 十 年
製 本 の御用は先づ安武へ
當店のバインリンドは其の目的を完全に
現はして居ます
進文堂
製本所 安武敏郎
福岡市大學通り二丁目電話二一〇七番次

